



第1回

ふるさとで

新しい命を育むために  
まず地域医療の再生を。

震災以降、医師不足が深刻化する東北。

福島県二本松市では、今春から産科医不在のため

出産のための周産期医療がうけられなくなっている。

地域医療再生のために、いま何が求められているのか。

福島県二本松市

市長

三保恵一氏

聞き手

女優

紺野美沙子さん

**紺野** 来年で震災から丸三年が

過ぎようとしています。当時

二本松市の被害はどうだったの

でしょう？

**三保** 震度六強で家屋の全壊と

か半壊はありましたが、大きな

ケガとか亡くなった方はいな

かった。それが救いでした。

**紺野** そのあと、今度は原発の

事故がおこったわけですね。

**三保** それまで県政にあって、

東電の原発関係についても取り

組みをしてきただけに、地震が

起きてすぐ、原発が心配だなと



**三保 一**  
Kazuhiko Mihno

昭和二十四年、二本松市生まれ。  
昭和五十八年、県議会議員に初当選。  
県議会議長を経て、平成十五年、  
二本松市長に就任。平成十七年、  
二本松市、安達町、岩代町、東和町が合併し、  
新「二本松市」が誕生、初代市長となる。

思っていました。

**紺野** その懸念が現実のものに。

**三保** そうです。三月十五日の朝早く、浪江の馬場町長さんが市長室に来られて、「緊急避難をさせてほしい」という申し入れがあったんです。そこで、すべて二本松市で受け入れると回答しました。以来今日まで三千人を超える町民の方が、ここで避難生活を送っておられます。

**紺野** いまだに多くの方が、仮設住宅での生活を余儀なくされているんですね。

**三保** 子どもたちやお嫁さんた

金もかかる。子どもがほしくて、ためらいますよね。

**三保** 苛酷な労働環境に加えて、訴訟率が他の科に比べて約三倍というプレッシャーもありますので、全国的に産婦人科の医師数は減少しています。それに加えて原発事故の影響もあります。なかなか来て下さる方がいない。**紺野** 国や医師会に働きかけてもだめなんですか？

**三保** これまで何度も厚生労働大臣や県知事や、または全国の大学病院、全国社会保険協会連合会などにこうした窮状を訴え

ちと別々に生活されている方もたくさんおおいです。一日も早く、家族が一つ屋根の下で暮らせるようにしてあげたい。そういう環境を一刻も早く取り戻すことが最重要です。浪江町の皆さんには、この二本松で元気になっていただいて、新たな人生を歩み出してほしいと、そんなふうに願っています。

### 「出産難民」という言葉が生まれる背景

**紺野** ただ、二本松市にも将来にむけての不安材料がいろいろ

てきたのですが、今もなお、産婦人科医師を確保できないという状況です。日本の産科医療はいま負のスパイラルに陥っているんです。生む場所を見つけないことができない「出産難民」という言葉さえ生まれています。

**紺野** 悲しい言葉ですね。病院の新生児室に赤ちゃんがいっぱい並んでいるというのは、なんとも言えない幸せな風景なのに。

**三保** 今、人口減少時代を迎えて、特に原発事故後、人口減少が加速する中であって、子どもを生み育てやすい環境をつくつ

おありだとお聞きしましたが。

**三保** そうですね。たとえば地域医療が抱える問題があります。医師不足、特に小児科と産科のお医者さんが足りていません。昭和三十八年に二本松・安達地方の中核医療機関として開設された社会保険二本松病院では、平成十七年に小児科医師の退職

によって、小児の入院を受け入れることができなくなり、福島県立医科大学から週に二回医師を派遣してもらって外来診療のみを続けています。

**紺野** 週に二回ですか。でも、子どもはそのときをねらって病気になるわけじゃないですからね。それは困りますねえ。

**三保** さらに産科についても、病院を新しく改築して立派な産科の施設があるのですが、昨年、産科医師が退職するということが、九月から診療の受付が停止され、今年の四月から産科が休

止になりました。

**紺野** 個人の産婦人科医院は？

**三保** 産婦人科の看板は掲げていても、婦人科診療と妊婦検診のみで分娩は扱っていないんです。二本松・安達地方は人口約十方で、毎年七百名を超える新生児が誕生していますが、二本松病院の産科の休止によって、現在、二本松市には赤ちゃんを出産できる周産期医療施設がなくなってしまうんです。

**紺野** それは重大な問題ですね。地元以外の施設に通うには、身体負担が大きいし、時間やお



乳幼児の集団検診。子どもたちの笑顔は未来への希望だ。その健やかな成長を見守っていくためにも、地域医療の再生は急がれる



二本松市では、市民の生命と安全を守るために、放射能被ばく防止の施策が進められている。写真は幼稚園園庭の除染作業風景

ていくことが、私どもに課せられた最大の使命です。女性と子どもの命を守る。元気なお母さんを中心として、家族みんなが希望に満ちた幸せな生活をする。

子どもたちが健康に明るく育つ未来をつくっていく。そのためにも、一日でも早く社会保険二本松病院の産婦人科を再開しなければいけないんです。

**紺野** こういった現状がもつと

もつと日本全国で知られるようになって、それこそ交替制でも

いいから、お医者さんがいらしてくださるといいですね。

**三保** はい。すでに定年で退職された方とか、経験のあるベテランの先生方にぜひご協力いただきたいと、そんなふうに思っているところです。

**紺野** 安達太良山を望む美しい自然のなかで、新しい命の誕生に立ち会って素晴らしい仕事だと思えます。一日も早い産科の再開をお祈りしております。今日はありがとうございました。

### 紺野美沙子

Misako Konno

昭和五十五年、NHK連続テレビ小説『虹を織る』でヒロインを演じる。その後、女優として活躍するが、平成十年には国連開発計画親善大使に任命され、国際協力の分野でも活動している。平成二十一年秋から、「紺野美沙子の朗読座」を主宰。

